

2 仮想マシンにUbuntu Linuxをインストールする

奥菌 隆司

かつてはLinuxを使った開発を行うためにはLinux専用のパソコンを1台用意する必要があった。しかし今では仮想化ツールを使って、現在使っているWindowsやMac OS Xのパソコン上に仮想マシンを作成し、そこにLinuxをインストールすることができる。

ここでは、仮想化ツールVirtualBoxを利用してUbuntu Linuxをインストールし、開発環境とする。(編集部)

本章では、Macintosh (Mac) や Windows ユーザが、Linux をプログラム開発環境として使用できるようにするための作業について説明します。

ここでは、仮想化ツールを使って、Windows または Mac 上に作成した仮想マシン上にLinuxをインストールします。仮想マシンを使うことで、インストール先のストレージを用意するためにパーティション操作ツールを使用したり、インストールCDを焼いたりせずに、インストール作業を行えるようになります。また、複数の仮想マシン上に異なる環境を構築することも可能となります。

仮想化ツールはVirtualBox (<http://www.virtualbox.org/>) を、Linux にはUbuntu (<http://www.ubuntu.com/>) を使用します。

1. 開発環境の構築

この章で説明する環境の構築手順は、以下のとおりです。

- 仮想化ツールのインストール
- 仮想マシンの作成
- Linux のインストール
- Linux のセットアップ

● プラットホーム

インストール作業に入る前に、プラットフォームと仮想化ツール、VirtualBoxへインストールするLinuxを用意します。

使用するマシンは、インターネットに接続できてVirtualBoxが動作すれば、MacでもWindowsパソコンでもかまいません。VirtualBoxをインストールして、作成した仮想

マシンにLinuxをインストールするという基本的な手順は同じです。本稿ではMacおよびWindowsを使った手順を説明します。

説明で使用したプラットフォーム (Windows および Mac) のスペックを表1に示します。

● 仮想化ツール

仮想化ツールは、VirtualBoxを使用します。VirtualBoxは、Mac OS XやWindows上で動作する仮想的なパソコン (仮想マシン) を作成し、この仮想マシンにLinuxをインストールして動作させます。仮想マシンを用いることでホスト上のファイルを仮想ハード・ディスクとして使用したり、ISOイメージ・ファイルを仮想CD/DVDディスクとして直接マウントしたりできるので、比較的容易にLinuxを導入することができます。

VirtualBoxには、バイナリで提供される製品版と、ソース・コードで提供されるオープン・ソース版の2種類があります。製品版はVirtualBox Personal Use and Evaluation License (PUEL) でライセンスされており、個人使用や製品の評価、教育目的であれば無償で使用できます。オープン・ソース版はGNU Public License, Version 2 (GPLv2) でライセンスされ、一部の機能が入っていません。なお、ライセンスの詳細は<http://www.virtual>

表1 使用したプラットフォーム

ハードウェア	OS
Intel Pentium4 2.6GHz, メモリ 2G バイト	Windows XP Professional Version 2002 Service Pack3
Apple iMac (Intel Core2 Duo, 2.16GHz), メモリ 2G バイト	Mac OS X 10.6.4